

第29号

発行 世田谷区町会総連合会
世田谷区若林4-31-9
ボライト第2ビル2F
☎・FAX 5481-3456

発行人 会長 倉本俊幸
編集 情報誌編集委員会
編集委員長 鈴木誠

せたがや 町総連だより

町会・自治会活性化キャンペーン

第3弾

平成21年度活性化キャンペーン 町会・自治会の魅力発信!!

世田谷区町会総連合会 会長 倉本俊幸

町会総連合会では、平成18年度から、活性化キャンペーンに取り組んでまいりました。これまで、平成18年度の理事研修会開催をはじめとして、平成19年度には「加入促進に向けての宣言」を採択し、その後、活性化キャンペーン広報チラシの作成・配布、加入促進や活動の担い手発掘に関する「モデル町会・自治会」における取組みとともに、「町会・自治会交流会」を開催いたしました。

魅力発信!!」として、情報発信を推進し、加入促進を図り、活動のさらなる活性化につなげていきたいと思えます。

もう1つは、「モデル町会・自治会の取り組み支援」と、「町会・自治会交流会」の開催です。

平成20年度には、「町会・自治会の底力をアピールしよう」を標語として、温室効果ガスの削減を目指した環境の取組みも進めてまいりました。

その内容の第1は、「町会・自治会広報のICT化」です。

「モデル町会・自治会の取り組み支援」については、特色ある取り組みを進めようとする町会・自治会に対して、町会総連合会から、「まちづくり専門家」を派遣します。また、「町会・自治会交流会」については、3年目となりますので、これまでと少し趣向を変えて、計画を進めます。

平成21年度は、これまでの取り組みを、さらに発展させ、活性化キャンペーン第3弾、「町会・自治会の

世田谷区でも、地区町会連合会のホームページがきっかけとなって、遠方から視察団が来訪されるなど、情報化の流れは無視できないものとなっております。

この時機を逃さず、町会・自治会の魅力をさらに発信して、会員をふやし、誰もが安心して住み続けることができる世田谷をつくっていきましょう。

公開を目指します。

「情報誌編集委員会」の下に、各地域から選出された、単位町会の役員クラスで構成する、「広報ICT化委員会」を設置して、平成22年度のホームページ公開を目指します。

国や都でも、町会・自治会の役割を再認識し、さまざまな施策を展開しようとしています。

目次

町会・自治会活性化キャンペーン	1
平成20年度 町会・自治会交流会の概要	2
地域情報	
烏山地域 地域の事はまず地域で	3
世田谷地域 世田谷発展の縮図	4

北沢地域 健康と安全につつまれた町をめざして	5
玉川地域 地域に根付くまちおこし	6
砧地域 火の見櫓と消防自動車のある事務所	7
編集後記	8

平成20年度 町会・自治会交流会の概要

平成20年11月13日、下北沢の北沢タウンホールにおいて、110人の参加のもと、町会・自治会交流会が行われました。

今号では、先進的な環境施策で知られる滋賀県野洲市からお招きした堤自治会長のお話と、意見交換会のまとめをご紹介します。

《堤自治会

橋本彌壽雄会長のお話》

堤自治会は、市に89ある自治会の1つで、会員数116世帯です。「オラが在所はオラが守る」の精神で、活動しています。

会の環境対策についてお話しします。

伏流水に恵まれて田んぼが栄えた集落の生活も、昭和50年代には蛍や梅花藻(バイカモ)などが生息しなくなっていました。

伏流水が涸れて、いなくなつた蛍の復活を目指し、子ども会も関わり幼虫を放流しています。平成20年、5年目で、ようやく蛍が飛

び立ちました。

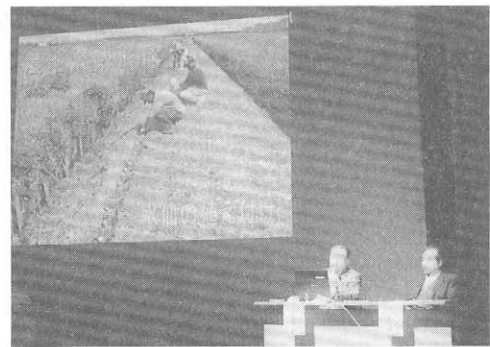
「魚のゆりかご水田米」というのがあります。

プランクトンがいる田んぼに堀を伝って琵琶湖からフナ、ナマズなどの魚が遡上し、産卵、孵化して、琵琶湖に帰る習性がありました。耕地整理で田んぼの面が上がり、魚が上れなくなりました。そこで、堀に堰

(せき)板を作り、魚が遡上できるようにしています。田んぼ1枚3000㎡で約6万匹の稚魚が育ちます。

この田んぼで作る「魚のゆりかご水田米」は、県の「環境こだわり農産物」の認証を受けています。また、草刈りをした後に、水仙や彼岸花を植える「農地景観形成事業」のほか、サワガニの復活を目指す「近隣景観事業」や、遺跡・歴史の勉強会にも取り組んでいます。

このように、堤自治会では、環境に考慮しつつ、食の安全安心も追求していて、それが地域の活性化にもつ



ながっています。

《意見交換会》

野洲市の報告もふまえて、少人数で意見交換をする方式で、「まちの底力」についてお話しいただきました。「まちの底力」を再認識するためのポイントを、

当日の運営をお願いした、有限会社プレイス福永氏に整理していただきました。

○新たな人と知り合うきっかけづくり

ちょっとした活動、かわりやすいテーマで地域の人、PTAやおやじの会、若い人(大学生)などと知

町会・自治会交流会 次第

日時：平成20年11月13日 午後1時～4時

会場：北沢タウンホール (ホール)

内容：午後1時 開会

挨拶

世田谷区町会総連合会長 倉本俊幸

世田谷区副区長 森下尚治氏

<第1部>

・成果の発表

・環境をテーマにした事例発表

＝野洲市(滋賀県)に学ぶ＝

野洲市まちづくり政策室 主席主幹 遠藤由隆氏

堤(つつみ)自治会長 橋本彌壽雄氏

<第2部>

・町会・自治会長による意見交換

《テーマ》・・・「まちの底力を再確認しよう」

午後4時 閉会

り合うことができます。具体的な活動が見えると、若い人も参加しやすくなります。町会会館などを地域の拠点として活用する例もありました。

○地域の大学や企業と連携する
若者も何かしたがついていける人はたくさんいます。キッカケがあれば一緒に活動できます。具体的にお願

いすることが大切です。

○目的をはっきりさせて、楽しく活動する
イベントは目的をはっきりさせるとよい、楽しい企画で人が集まる、というこ

ろ、

指摘がありました。○町会・自治会同士でも交流を深める
今回のような交流会だけではなく、隣同士の町会や自治会でも日ごろから交流することで、いろいろなアイデアや困りごとの解決ができる場合があります。

○情報が大切。広報紙やホームページなどを活用して

回覧板は大切です。掲示板もつと活用できるかもしれせん。さらに、新しい取り組みとしてインターネットの活用も考えられます。

烏山地域

地域の事はまず地域で

上祖師谷自治会副会長 佐藤 治雄

師谷自治会は役員、会員力を合わせて色々な活動に頑張っています。

まず、私たちの自治会は、

小さいながら事務所があり、そこに週2回事務員さんがいて、色々な仕事をしています。そして、用事のある時は各部の人たちも来て一緒に仕事をして、大変い霧囲気です。

自治会は、総務部、交通部、防犯部、防災防火部、福祉厚生部の5部で構成されています。総務部は、総会の準備、開催を行います。近年総会への出席者もだいぶ増え、質問も出て活発な総会になってきました。昭和59年、日本は男女とも平均寿命が世界一の長寿国になりました。そのような中、敬老の日には、会員の家族の方で75歳以上（昨年は829人）の方に御祝の粗品を配って歩きました。御祝をもらう時のお年寄りの笑顔は、口ではうまく表現できないものがあります。配ってよかったと思う時です。

自治会への加入世帯は2900世帯です。これを増やしていくのも大切な問題だと思っています。

交通部は、春秋の交通安全運動の実施、毎年8月終り頃の日曜日に神社の境内で子どもたちを対象にして「子ども祭り」を行っています。スイカ割り、ヨーヨーすくい、スーパードールすくい、サッカーゲーム、自転車の乗り方、そして婦警さんによる腹話術なども行いました。参加した子どもさんには、お菓子を配っています。

防犯部は、年に2回は、駐在さんと一緒に部員が反射ベストを着て地区内をパトロールします。また、年2回、広報車で振り込め詐欺の注意、ひったくりの防止の注意などを広報してまわります。また、交通部の子ども会、神社での農業祭の時などには、テントを張って、防犯活動をアピールしています。

防災防火部は、部員のD

上祖師谷は、世田谷区の西のはずれに位置し、西は調布市に接しています。区の中心部より離れていたため、都市化の波も遅れて押し寄せて来たので、まだ緑もだいぶ残っています。平成4年3月に大道北土地区画整理組合を設立して、道路も公園も整備することができましたが、近年賃貸マンション、分譲マンション、建売等が急速に増えてきました。

東京女子医大の結核の療養所として開設され、現在の総合病院へと発展してきました。祖師谷公園の前身は、昭和11年頃、教育大学の実験農場で、農場実習、研究が始まりました。時が流れて教育大学が筑波大学となり、茨城に移転した後は、しばらく草原の広場となっていました。そして、駒大グラウンド南側の土地と教育大跡地を整備して、昭和50年6月1日に、祖師谷公園として開園をしました。

平成4年には米国ワシントンから贈られた桜を、仙川べりに植樹しました。今はだいぶ太くなり、今年も奇麗な花を咲かせました。平成2年に開館した留学生会館（外国の留学生が宿泊する所）も、教育大農場の跡地です。昭和34年、上祖師谷駐在所が開所しました。昭和45年、上祖師谷の住居表示制が実施され、上祖師谷の住居表示が一丁目から七丁目に変わりました。

大正9年に第1回国勢調査が行われましたが、その時の上祖師谷は、76世帯、人口494人でした。終戦の昭和20年には315世帯、人口1455人、平成21年8575世帯、1万8042人と増えています。反面、一世帯平均で見ると昭和50年2・8人、昭和60年2・5人、平成21年2・1人と核家族化は進んでいます。こういう状況の中、上祖

型ポンプの操作訓練、競技会への参加、今年初めての試みとして229世帯ある分譲マンションの管理組合と合同で消防署、消防団、世田谷区の協力を得て、消防署のポンプ車からホースを伸ばして、マンション建物内への消火進入訓練を行い、消防団にはAEDの指導をしてもらいました。防災訓練も、今までは一般会員の人たちに神社等に来てもらっていましたが、防災部員がマンション、小公園等に出かけて行って小さな訓練を行うようにしており、これも一つの有効な方法かなと思います。

福祉厚生部は、「元気はつらつ」という会が活発に活動し、振り込め詐欺の話、琴三味線の演奏、サツマイモ掘りとそれを食べる収穫祭、あんしんすこやかセンターの人に来てもらって介護の

世田谷地域

世田谷発展の縮図

歴史が語る三宿のまち

三宿自治会会長 佐々木 國 男

三宿という地名は、北宿、本宿、南宿とあったことから三宿という説と、水が豊富であったことから水宿が三宿になったとも聞いています。世の移り変わりとともに、区の区画整理により、南宿付近と思われる三宿中学校付近は太子堂一丁目町

会に、北宿と思われる烏山川緑道から北沢川緑道までが三宿北町会で、本宿と思われる国道246号線から烏山川緑道までが三宿自治会です。

三宿神社の旧住所は、荏原郡世田谷村北宿参百七拾九番地です。

話、社協の方の話、まちづくり出張所長の話、体操などの活動をし、お年寄りに大変喜ばれました。11月には、日帰り旅行で、富士山、河口湖に行つて、会員相互の親睦を深めてきました。参加者も年々増えています。そして、駐在さんには、地域に溶け込むため、種々の活動に参加してもらい、大変感謝をしております。

子どもの頃、この付近はこんこんと清水が湧き流れ、特に夏などはその味が忘れられません。

三宿の町の発展は、都心への交通機関である大仙道、国道246を中心に変動してきました。農家の人が醬油樽を担いで大橋を渡り下

町へ、練馬方面からは池尻

稲荷神社の湧き井戸水で喉を潤し、大山阿夫利神社へ雨乞いに行きました。

明治24年頃、大橋から三軒茶屋にかけて、軍の部隊が野砲や騎兵聯隊等ができて、兵が4000、軍馬が2000、その馬糞が農家の畑の肥料になり、また部隊の必要とする商店ができた。町が活気づいていきました。収穫した穀物の一部を災害時に備えて、蓄える倉庫が、現在の世田谷学園の所になりました。

世田谷学園は大正の初め、本郷駒込から移転してきました。当時、学園に学生寮があり、記念誌を拝見しますと、

『東正門前は所々芋畑、南は砂塵をあげて走る電車のきしむ音、北は菜の花畑の向こうに神社の森、かすかに聞こえる水車の音、西は所々に島のように見える猛竹林の林、遙か向こうに富士の峰山』

とあります。

都心で必要とする砂利を運んでいた貨車が玉川電車になり、車の交通量も年々増加、昭和39年東京オリンピック開催を機に、20米幅の道路が40米になりました。交通事情は緩和されましたが商店街は分断されたかたちになりました。

そしてわずか5年後の昭和44年5月10日には、長年区民の足として愛用されてきた玉川電車が、首都高速道路建設のため廃線になり、お別れの花電車に涙しているお年寄りの方もいました。

その後、電車は地下化されて開通し、高速道路も完成している今日です。

昭和63年12月、安心していつまでも住み続けられるまちづくりが始まりました。

20有余年を経た今日、目に見えて町の様子も変化してきました。新しくできた道、行き止まりの解消、平成10年には榎公園、平成18年には小学生の意見も取り入れた「たぬきのポンポ公

園」が完成し、消防団資材格納庫、防火水槽、幼児遊具等を備える町の憩いの場として利用されています。

「まちづくり」をするうち、楽動クラブ（花づくりのグループ）ができ、区有地に、暫定的にビニールハウスを建てていただき、種から花苗を育て町の花壇に移植しています。日本全国花の会に2回受賞しました。毎年11月に、小学校1年生と植えたチューリップの

球根やその他の花が、今年も春にいっぱい咲きました。

災害時における避難所である小学校で、毎年夏、先生、子ども、地域住民が、防災訓練、サバイバルキャンプ等に取り組んでいます。夜は体育館で紙芝居、体験談等を話して、一泊します。毎月1日は、早朝、神社の境内の清掃、社前にて宮司の「この月もこの町の安全祈願」に心新たにその月が始まります。

南の孤島に眠るあの苦勞をともした友の分も頑張らねばと思って、いつの間にか88才、餅つき大会等体力テストに杵を持って、まだいくらか動けるかなと思っ

う昨今です。相変わらず暗いニュースの多いご時世ですが、これからも、少しでも住みよいため「まちづくり」に努めてまいります。

北沢地域

健康と安全にっつきました町をめざして

新代田町会連合会会長 西川 進

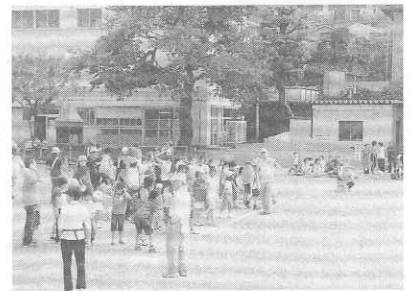
新代田連合町会は北側に国道20号、西側は根津山の羽根木公園から井の頭線東松原駅手前、南側は北沢川緑道、東側は下北沢手前に面し、交通は京王線代田橋、井の頭線新代田、小田急線世田谷代田各駅利用を中心とした区域をテリトリーとし、構成する町会は10町会

で、それぞれ特徴のある活動を行いながら、約1万5500世帯による町会連合会を結成して、まとまりの良い形で地域住民の生活向上を目指して活動を行っています。

当地区は、昔は田園風景に似た緑の多い所で、南にある根津山（羽根木公園）

一帯は六郎次山と言われ「だいたらぼっち」という山男の伝説があり、今でも山里の状況が偲ばれます。戦争前後からの居住者の落ち着いた生活の場所ですが、最近ではニューファミリーの方々も増え、洋風住宅やマンション、ビルも多く建設されて風景が一変しており

その信条は健康、安全、環境を大きな柱ととらえ、身近なまちづくり推進協議会を活動の拠点とし、加えて住民で結成した体操の会



〈地域一丸の「まちぐるみ運動会」〉

ます。そんな中で私たちは行政とも手を取り合って、明るく住み良い、安全で健康的な地域づくりに取り組んでいます。

や、高齢者や未成年の人たちの指導、助成をする会、PTA、そして環境整備・緑化を實行する集まりなど、色々なグループがそれぞれの役割を分担しながら行事をこなしています。

管内の子どもたちが通う小・中学校5校との交流も盛んで、まちぐるみ運動会、区の助成で実施している児童を見守るパトロール隊、学校を見守る会、通学路に壁画を描く会など、学校、児童、PTAとの協力を通して色々な活動を行っています。

その中で、今では当地域の大きな特徴に育っているものがいくつかありますが、その一つとして、他の地域では見られない地域一丸の「まちぐるみ運動会」があります。秋晴れの一日、管内の学校校庭を利用して毎回1000人を超える住民が集まり、手に汗を握り競

体力測定など

技や応援をし、模擬店も出て大人も子どもも大変楽しんでいきます。

また、普段はあまり表に出られない地域のお年寄りの方の閉じこもり予防を兼ねて、軽体操や茶話会でもてなす「ふれあい教室(サロン)」を毎月開いています。さらに、自分自身の健康状態が数字でわかる「体力測定会」は、前年の体力との比較や今後の指針も示されるので大勢の方に大変喜ばれています。

：安全・災害・環境：

一方、安全に関してはいつ起きるかわからない大災害を想定して全地域合同の防災訓練、学校と合同の避難所運営訓練、地区内各域での交通路の見守りや監視等も行っていますが、これらに大いに力になっていただいているのが当地域の「宝」である消防団第8分団です。現在40数名の男女精鋭で結成され、高い理想と、地域住民を守るとの意

識をモットーに、その技術と士気は高く、区や都の技術を競う大会では幾度も優勝の栄誉に輝いています。

さらに、日夜災害に目を光らせ、何か事故のあるときは、団員が必ず現場に駆けつけます。地域住民が安心して毎日を過ごせるのも第

玉川地域

地域に根付くまちおこし

野毛町会長 大島 一 孔

8分団の研鑽の賜物と感謝しています。

また、環境汚染やごみ、資源等にも専門の部会が気を配り、会合を持って情報の交換を行い、ごみゼロデーの実施や住民への啓蒙活動に力を発揮しています。このように新代田地区町

会連合会が傘下の各町会の活動を応援し、個々の町会もそれぞれの特徴を活かした自由な活動を通して住民の皆様に喜んでいただける「明るく、楽しく、安全で、健康な生活」の出来る町へと取り組んでいる現在です。

社会を迎え、恵まれた自然環境の中で人々のふれあいに支えられ、いきいきと活動できる生活環境を築いていきたいと思っております。郷土が受け継いできた豊かな文化を守り、地域住民相互の活発な交流と絆を大切にして、町会の人たちによる生きがいのある豊かな地域社会を次の世代に伝えていきたいと思っております。

子どもたちと共に長寿を喜びあえるまち

野毛町会は区の南部に位置し、多摩川や国分寺崖線に隣接した多くの自然に恵まれ、水と緑と古墳のうるおいの町として、閑静な住

宅地が広がる地域です。善養寺境内にある天然記念物の大榎、また多摩川沿いの台地には石器時代・古墳時代の都指定史跡の野毛大塚

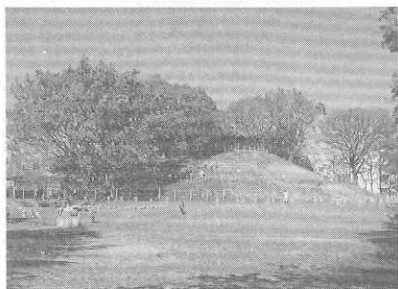
古墳があり、帆立貝式の珍しい前方後円墳で、刀剣・甲冑など都内随一といわれる副葬品が発掘され全国の注目を集めました。

4月現在の人口は5803人で、0〜14歳と65歳以上とで、ほぼ同数の比率になっています。

野毛町会は、子どもから高齢者まですべての住民が、生涯を通じてともに安心して暮らしていけるまちを目指しています。高齢・少子

子どもは、未来への「希望」です。この基本のもと、町会として子どもたちが健康やかに成長するように、さまざまな取り組みを推進しています。子どもが本来持っている「自ら成長し育つ力」、「心豊かな元氣な子ども」が育つための環境づくりを行い、子ども自身がさまざまなことを見て、経験し、実現する楽しさ、社会の仕組み等を体験できるように地域の方々と連携して実践しています。

野毛地区における人口に



〈都指定史跡の野毛大塚古墳〉



〈新春マラソン大会〉

占める65歳以上の人口割合は14・7%となっております。

これは、世田谷区総人口に占める高齢者人口割合に比べ若干下回っている状態です。地域社会との交流の少ない一人暮らしの高齢者、外へ出ず家に引きこもりがちの高齢者に対しては、地域のみならず支えあうことが非常に大切なことと思えます。すばらしい生活環境の中、「知りあい・ふれあい・支えあい」の気持ちを持って、町会活動を行っています。

例年の活動実績といたしましては、広域避難場所にもなっている玉川野毛町公園内の多目的広場において、子ども会を開催しております。警察署、消防署の協力をいただき、交通安全・白バイの展示、消火器・起震車体験など、子どもたちが楽しく遊び学べるコーナーを地域住民、PTAの方々の協力をいただき行っています。

夏には盆踊り大会を開催

し、高齢者の方々との交流も深めています。秋には六所神社の例大祭を、子どもからお年寄りまで地域住民が集まり盛大に行っています。敬老会では、75歳以上の先輩の皆さんを対象に寝たきり、引きこもりのないように、お互いの近況等を報告できる交流の場づくり

砧 地域

火の見櫓と消防自動車のある事務所

法人格成城自治会会長 羽田 宏

私どもの事務所は、成城のまちの中心部、成城学園前駅へ徒歩3分といった場所にあります。

このまちは、国分寺崖線

を行っています。

野毛地区発祥の新春マラソン大会は、今では青少年地区委員会の事業として、上野毛地区の大きな行事となっております。上野毛地区4町会（野毛町会、上野毛町会、玉川中町会、中町4・5丁目町会）は、常に連携を保ち相互協力のもと

さまざまなイベント等を実施しています。

住んで良かったと思えるまちづくりを目指して、これからも努力して行きたいと思えます。なお、「野毛町会」の概要はホームページにおいて紹介しております。

中心部に位置し、自治会活動の拠点として、理想的な場所にあります。

そして今、あらためて自治会事務所を眺めたとき、小型ではありますが、一角に消防自動車の車庫があり、背にこれも小型ではありませんが、火の見櫓を備えた、完全木造2階建ての家屋が、法人格・成城自治会の表札を掲げて業務を行っています。

それはまさに、新しく高層化された商店街の谷間に、時代の変化を恐れずに、その存在を強く主張している姿にも見えます。

しかし、戦後間もなく（戦前に遊びにきた、という方もいらっしゃる）の木造2階建てですから、初めて事務所を訪問された方は、歩く度に異様な音の出る建物の中に、落ち着いていられないようです。

このような訳で、事務所改築の発案は、何年も前から役員会で、また総会で話題とされてきましたが、具



学園都市を目指して、碁盤の目のように街路を整備し、生垣の高さを規定し、通りがかりの人が見られるよう

に、開放的で閑静な住宅地として形成されました。昭和2年、小田急線開通とともに成城学園前駅ができ、駅周辺の商店街を中心に広く発展しました。現在は街区も9丁目まで拡大しただけでなく、住民の世代交代が進み、ほとんどの住宅が改まり、商店街は高層化され、周辺地域の一部も集合住宅、マンション化へと動きが急です。そんな中で、事務所はまちの

体化が単純でないこともあり、実行に移されることもなく今日に至りました。

そして、国内でも国外でも大きな地震が起こる都度、改築の緊急なことを認識し、訪問者は建物のいびつな点を指摘するのです。

今年度、やっとこの問題を取り上げることになりました。しかし、話題になる点は、この狭い土地(80・03㎡)への建築、火の見櫓の撤去、2階建てでなく高層にした場合に起こる管理の問題、思い切った移築しては、などなどで、課題山積です。

さて、事務所の利用勝手

をのぞいてみます。私どもは、昭和27年の自治会再発足以来、月間の自治会報「砧」を発行し、現在675号となっています。

理事の中から希望者を募り、広報委員会を構成し、2階の会議室において、月4、5回、編集方針、出稿依頼、取材、割付、印刷発注、校正等々の業務を行っています。

ます。

建築・緑地緑化・道路などの環境問題、また、地域の行事、学校協議会報告、行政からの連絡などの日常のお知らせを掲載し、20ページ(10ページは広告)で、約5000部を毎月各家庭へ配布する作業は1階の事務室の一隅で行います。

2階の会議室は、「成城憲章運営委員会」、「道路専門委員会」、幹部の打合わせ、お客様の応接、その他とフル活動。

1階は、事務職員、備品倉庫、作業台、役員の小打合せ等で、こちらも常に一杯になっています。

そのような事務所の使用状況をみると、防火・防災の観点も加え、早く建替えの問題に決着をつけなければならぬ緊急性を帯びた問題だと思えます。

どこの町会・自治会にも事務所があり、その運用に知恵をしばっておられることと思えますが、参考にさせて頂きたいと思えます。

町会・自治会長交替のお知らせ(敬称略)

平成21年6月4日現在

地域	町会・自治会名	新会長	前会長
池尻西町会	池尻西町会	鉢嶺清功	田中清子
	経堂1丁目町会	吉良公彦	石綿勝
経堂北町会	経堂北町会	川畑和子	松原秋夫
	宮坂3丁目町会	松原市郎	梶山義雄
桜丘1丁目町会	桜丘1丁目町会	村松國昭	大木重永
	桜丘南町会	二村比佐子	河原義雄
北沢	豪徳寺1丁目町会	田中博光	中山富久子
	桜上水5丁目自治会	松下寛子	秋元治子
玉川	尾山台クラブ	林和男	松下英夫
	船橋会	鈴木幸次	鈴木幸夫
砧	喜多見東部町会	石井淳良	永井秀雄
	喜多見北部町会	岡田正雄	鈴木謙二
烏山	都営喜多見2丁目団地自治会	篠原茂	梶尾照子
	成城通りパークウエスト自治会	増田邦夫	青木喜幸
烏山	粕谷会	本橋俊夫	倉本俊幸
	烏山北住宅賃貸自治会	高石洋一	山形博是
地区	新理事	前理事	
池尻	山内彰	芦川幸三	
代沢	榎本徹	小坂恵一	
松原	富田保	穴戸鉄男	
上祖師谷	本橋俊夫	倉本俊幸	
烏山	田中光男	海老澤一良	

理事交替のお知らせ

編集後記

各地域ともお忙しい中、原稿をお寄せいただき、誠にありがとうございました。さて、新型インフルエンザがついに日本でも発生しました。

世界の患者数は、1万人を超え、日本でも感染が拡大しています。

人ごみを避けること、手洗いやマスク着用、せきエチケット、うがいの徹底などが、感染拡大防止に有効だそうです。

私たち一人ひとりが、正確な情報に基づいて、適切な行動をとることが、まん延を食い止めることにつながります。皆様のご協力をお願いいたします。

編集委員 鮎川 郁男

